

組合掲示板の「組合員の声」を問題にした支配介入は不当労働行為だ！



No. 3 発行責任者 田頭 啓
2021年7月23日発行 編集者：情宣部
JR東労組 盛岡支部

JRバス盛岡支店分会では夏季手当妥結結果についての切実な思いを、「組合員の声」として掲示しました。しかし… Part1

掲示した翌日（6月28日）、現場長から分会長（公休日）へ電話での呼び出しがあり以下のやり取りがありました。

会社（現場長）

組合（分会長）

「規律に反している。掲示板を貸せなくなるかも。現場ではなく本社が貸し出している。貸すも貸さないも本社次第。」
「掲示板貸し出しの際の規約に禁止事項が書いてある。」

掲示板を活用した「怒りの声」などの正当性を主張しつつ、適切ではないと思う部分は現場長に謝罪し掲示物は剥がしました。

「これで終わり。掲示物も今まで通り使って大丈夫。」

掲示物に関する問題は解決済と判断しました。しかし…

7月9日、現場長から再度分会長への呼び出しがありました。分会長は乗務の合間（休憩時間）で約1時間ほどのやりとりになります。会社は課長も同席しています。

「掲示に『ダイヤがきつい』とあった。そんなにきついなら盛岡をラクにしてあげましょう。その代わり20人転勤が発生すると本社が言っている。」
「掲示物も訴訟だってあり得る。」

「会社が言う規約に反した点については謝罪した。なぜ今頃になってまた言うのか？」
掲示物の問題については解決済のはず

「掲示板上に声があったからラクにさせると本社が言っている。」
「（代表選では）未加入者は『ダイヤがきつい』という掲示に共感して投票したのだから？」

脅しであると強く抗議

7月13日、再々度のやり取りが行われました。

（20名転勤の根拠は）あくまで可能性の話である。根拠については本社に聞いてくれ。ラクをしたいならダイヤを減らして支店を縮小する。

現場長は支店を守りたいと我々に主張するがなぜ本社に意見、反論、主張しないのか？



No. 4 発行責任者 田頭 啓
2021年7月23日発行 編集者：情宣部
JR東労組 盛岡支部

掲示板の「組合員の声」を問題にするのは 労働組合活動への支配介入であり「不当労働行為」だ Part2

7月13日に現場長は「20名転勤の根拠はあくまで可能性の話である。根拠については本社に聞いてくれ。」と言っていますが…

「行路がきつい」「乗りたくない」のであれば、そういう方法もあるということ。その話は本社からきている。私は本社の人間じゃないし判断しているわけではない。

純粋にバス盛岡支店の行路は久慈と岩泉だけ。そうなれば20名の余剰となる。

どう思っているのかを面談で聞いて本社に報告することになっている。面談の決め手となったのは掲示板だ。と現場長は発言しています。

みなさん、このような言動をどう感じますか？

掲示した組合員の声には「ダイヤがきついから『仕事をしない、乗りたくない』とは書かれていません。コロナ禍でも安全を最優先に働いてきたにも関わらず、定期昇給のカット、低額の夏季手当に対しての悲鳴であり怒りの声です。

その声を「ダイヤがきつい」とすり替え、職場の縮小と転勤を匂わせる脅しと取れる言動が行われました。また分会掲示板の文言を引用することで「文句を言う東労組」「働かない労働組合」を印象付けようとしているとしか見えません。

**物言えぬ職場にはなりません！
不当労働行為に屈せず
東労組運動を堂々と押し進めよう！！**

JRバス盛岡分会は、夏季手当妥結結果を受けて、組合員の切実な思いを「組合員の声」として職場掲示しました。「コロナ禍で奮闘する社員へ投資するべき」「労働環境が最悪だ」など、コロナ禍の中、黒字化に向け安全輸送を担い奮闘してきたからこそ、多くの切実な声が出されました。

その「組合員の声」に対し現場長は

「ダイヤがきついなら盛岡を楽にしてあげましょう。その代わり20人の転勤が発生する」

「楽にしたいならダイヤを減らし支店を縮小する可能性がある」

など、組合員の声を利用し脅しともとれる言動がされています。

そもそも組合掲示板に掲示した内容を問題にしていくことは、組合活動への支配介入であり不当労働行為です。

コロナ禍の危機的状況乗り越え「JR 東日本の構造改革」を担うのは「現場の組合員」であり「人」です。現場の声に耳を貸さず、脅しともとれる言動で「本音の声」を封殺することがまかり通っては「モノ言えぬ職場」になってしまいます。安全を守り、コロナ禍の危機的状況乗り越えるためには、不当労働行為のない、全社員が安心して働ける職場でなければなりません！

不当労働行為を断固許さず 組織総体でたたかいを創りだそう！！